

2020年度 教育活動等に関する学校評価書

社会福祉法人愛の園福祉会
幼保連携型認定こども園
幕張海浜こども園

1. 教育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解をもって、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

- 心の清い正直な人間（良心教育）
- 心の豊かな明るい人間（情操教育）
- からだの丈夫な強い人間（健康教育）

2. 本年度の重点課題

- ・配慮を要する子どもの育ちを支援する保育の充実。
- ・3歳未満児クラスにおける保育の環境構成と子どもの関わり方について研究し、個々の子どもの安定した成長の保障を図る。
- ・3歳以上児クラスにおける保育の環境構成や活動・教材についての研究し、子どもの発達・学習が促進される保育・就学前教育を計画的に実践する。（教材研究、保育の準備、話し合い、記録、次月準備の時間の確保など）
- ・課題の改善(保育者間の連携・協働)の工夫に努める。
- ・個々の保育者の資質向上・保育の力量を高めるための園内公開保育、勉強会を計画的に実施する。
- ・キリスト教保育について、経験層ごとに学びを深め実践できるようにする。（キャリアパス研修の実施）
- ・3歳以上児の定員を確保するため、地域の小規模保育園との連携を図る。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、S(十分に成果があった)・A(成果があった)・B(少し成果があった)・C(成果がなかった)・E(取り組みが行われていない)で表している。)

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価	意見
教育保育方針	1	子どもの発達に合わせたカリキュラムの作成をし、クラス職員が意識し実践に繋げようとする。	A	クラス担任全員の共通理解が図れるようクラス間で話し合いの場を設け、情報共有を行なっている。また、その事により保育実践に繋がっている。クラス担任以外の職員との連携に課題はあるものの、クラス担任からの発信を心掛け意識統一を図っている。	A	様々な勤務形態の保育者がいる中で、クラス内ミーティングを大切にしていることは良い点と考える。今後も話し合いの時間を設け、共通認識のもとで保育を行なっていくことが大切である。
	2	栄養士と保育者が連携をとり、子ども達に経験して欲しい活動や学びを保育内容に具体的に降ろす。 ※資料1	B	コロナウイルス感染症流行の影響により、例年と比べて食育活動は少なくなったが、毎月実施している「世界のおやつ」提供を継続したことで、色々な国を知ることが出来た。七草、さつまいもの食育などを通して、栄養士とこどもの関わりは持つ事が出来た。食育年間計画を保育者と栄養士と一緒に作成し、経験させたいことを明確にしていくことは今後の課題とする。	A	コロナウイルス感染症の流行により例年とは異なり、配慮しなければいけないことが増えた中、食育活動に取り組む事が出来たことは大変良い事である。今後は栽培やクッキングだけでなく、子どもの年齢に応じた食育方法を取り入れ、保育との繋がりが持てる様になると良い。
特色ある保育の展開	3	0歳から12歳までの保育をこども園と学童の職員が連携し、実践する。 ※資料2	B	職員間の連携においては細かい所の確認が出来ていなかった。遊戯室の使用状況などホワイトボードなどを使用していく。また、全体会議の中で双方の様子についての情報を発信・共有する必要がある。	B	職員が聖書を学び、保育に繋げる中で子どもたちからもお祈りや聖話に親しみ、子どもたちの心の中にも響いているものがあるように感じる。0歳から12歳までの保育が提供出来ることで幼児期の大切な時期をこども園で一貫して過ごすことが出来ることを地域に情報発信しながら特色を活かしてほしい。
	4	経験層ごとのキャリアパス会議を行い、聖書の理解やキリスト教保育、聖句についての学びを行う。また、それらの学びを各クラスに降ろし、実践する。	B	毎月の園長・主任会議内で、リーダー職員が聖書を学び、その内容を柱に保育と繋げることが出来た。しかし、個々の学びをその他の職員に共有する事が出来なかった為、今後は定期的に職員が学びを深める時間をつくっていききたい。	B	

保育環境の充実	5	保育室が「教育的配慮のある環境構成」になるように工夫・改善していく。また、主体的な生活を送れるよう環境作りを行う。 ※資料3	A	保育環境の見直しを定期的に行ないながら、子どもの発達や興味、保育内容に考慮し、保育環境を整え過ぎしてきた。今後は環境改善後の振り返りや反省を行い、次年度に活かしていけるようにする。	A	子どもたちが主体性を持ち生活出来るようにすることが大切である。今後もこどもの成長に合わせて環境を整え、成長にあったものを提供出来るが良い。 また、絵本の整理を行ないながら保育者にも分かりやすく手に取り保育に下ろせるようにしていくとさらに良い。
	6	絵本や紙芝居の充実・整備を行う。 ※資料4	A	絵本が充実しており保育環境を整えやすかった。管理方法として、整理や補修を定期的に行ない、さらに活用しやすいようにしていく。	A	
保護者との連携	7	毎日の子どもの様子を伝えるため、ブログやFacebook ページ、降園時や連絡帳などで、保護者の思いを聞き、個々の様子について知らせる。 ※資料5	A	SNS を定期的に更新し、情報発信が活発に行えるように、インスタグラムを導入した。保護者連携は、新型コロナウイルス感染症流行により、個人面談等の実施は出来なかったが、連絡帳の活用方法や保護者対応を見直し、連携をとれるように努めている。	B	今年は感染症の流行により園での様子を知る機会が減っていた為、例年以上に保育者が意識し、日々の様子を伝え合う環境をつくる必要があった様に思う。 園内行事においてはインターネットなどを利用し保護者が見られる機会を確保することも良いと思う。
小学校連携	8	3歳児からの発達・学びの連続性を考慮した指導計画の作成・保育実践を行い、就学に繋げていく。	A	各年齢の成長を踏まえた保育カリキュラムを基に保育実践を行っている。新型コロナウイルス感染症流行により、今年度は小学校の教員や子ども同士の連携は行えなかったが、子ども達の就学に向けて安心できるように関わりを持っている。	A	新型コロナウイルス感染症流行により直接的な関わりは持つことが出来なかったが、小学校と繋がりが途絶えないように主幹保育教諭を中心に連携をはかっている事は良い。

保育者の資質向上・連携	9	各学年、複数担任で保育を行う中で、気付いた事をその都度声に出し、クラスミーティングを開催する機会を作るなど、風通しの良い人間関係を意識する。	B	保育の課題に気付いているものの、積極的に発言できない職員もいるため、園長が代弁や直接指導を行いながら、話し合うことがある。職種に限らず、職員一人一人の意識をさらに高め、責任のある業務を行うことは引き続きの課題。	B	保育者自身が働きやすさを求めるのではなく「こどもの命」を守るために職員同士が話し合い、共有・共通理解を持ち保育を行なっていく必要がある。また、保育者同士が自分の思いや考えを素直に話せるような人間関係を築いていけるように園長・主幹保育教諭が中心となりより良い環境をつくっていく事も必要だと思う。
	10	職員が共通の思いと理解を持ち保育の質の向上を目指せるよう、日々の振り返りを行なう。	B	職員間の話し合いの場を設け、連携をしながら保育を行ってきた。今後も毎日の振り返りを行いながら、より良い保育が出来るように意見を出し合える環境を作っていきたい。	B	
	11	教材研究、保育準備時間等の確保を行い、子どもの学び・発達を理解し、よりよい保育に繋がられるようにする。	A	保育のねらいや取り組む目的・意味などを確認しながら保育を行った。また、保育準備は、作業日程表を活用し計画的に進めることができた。保育課題の共有は一定量出来ているため、今後は実践と振り返りを行いながらより良い保育環境が保たれるようにする。	A	
	12	園内事故については、見守りカメラなどを活用しながら確実に原因を探り、再発を防ぐための早い対応をとる。 ※資料6	S	事故発生の様子を動画確認する事で再発防止に役立てている。また、検証した内容を全職員が周知出来るよう、会議やクラスミーティングの場を利用し伝えている。	A	
危機管理	13	防災訓練時で出た課題をクラス間で共有し、今年度の訓練に参加する。	A	防災訓練の際に出てきた反省点をクラス間で話し合い、意識をして取り組んできた。また、防災監視盤の再確認なども行い共通理解に努めた。避難訓練等で出された課題を共有しながら、防災に努める。	A	事故への対応など情報共有やシミュレーションを行ないながら取り組んでいることは良い事である。内容により必要共有レベル(職員間・園全体・法人間など)を決め、共有レベルも職員間で統一することも必要になってくる。
	14	災害マニュアルの確認を行い、各職員が自分の役割を理解する。	A	災害マニュアルを各クラスに掲示し、自分の役割を意識出来るようにしている。また、防災訓練を通して自分たちの役割を確認している。	A	
	15	遊具点検の徹底化、ヒヤリハットを基にした具体的な事故防止に努める。 ※資料7	B	遊具点検は巡視の際に行っている。また、ヒヤリハットの作成を行ない、クラスに掲示している。今後は定期的に見直しを行う場を設け事故予防に努める。	B	

(目的)

乳幼児の教育・保育活動その他施設運営について目標を設定し、その達成や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を図る。

(評価)

自己評価は、幕張海浜こども園の職員（保育教諭、栄養士、調理師、事務員、一時預り専任者等）によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組みの状況について評価を行う。

学校評価関係者による評価は、幕張海浜こども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の延長ほか、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

(評価時期)

自己評価	年2回	9月・1月
評価委員による評価	年1回	1月
第三者評価	5年ごとに1回	2011年／2016年／2020年

(報告)

学校評価の結果は、保護者および地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

(評価委員とその任期)**自己評価者**

1	園長：千葉諭、主幹保育教諭：浦裕美、保育教諭：遠藤逸希・後藤香菜・東里紗・坂内恵里香・福田茉衣子
---	--

評価委員（2020年度）

		役 職	氏 名（敬称略）
1	幕張海浜こども園に在籍または卒園した園児保護者	現保護者会 会長 卒園児代表	鴛海千尋 松井龍行
2	地域関係者	社会福祉協議会幕張西地区部会 会長 千葉市第30地区自治会連絡協議会 会長 ライオンズマンション幕張プラザ自治会 会長	平野悦子 白田稔 結城常雄
3	姉妹園	社会福祉法人愛の園福祉会 第2幕張海浜保育 園長	福嶋悦子
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年間とし、再任を妨げない。また、任期途中で地域の役職が変更された場合は、後任者と相談の上、引き継ぎを決定する。